

駅構内等のおいに関する揮発性物質分析手法

京谷隆 川崎たまみ 潮木知良 早川敏雄

公共空間における衛生環境に関する関心が高まる中、公的輸送機関の一つである鉄道においても、衛生環境を把握・評価することが重要であると考え。当研究室では、利用者の衛生観に関する意識調査と、空中浮遊微生物に関する調査を行ってきた。その結果、真菌類が放出する揮発性物質が駅空間のおい原因の一つであるという考えに至った。このため、これらの揮発性物質の分析を試みることにした。分析の手法としては、SPME（固相マイクロ抽出）-GCMS（ガスクロマトグラフ質量選択性検出器）法を採用し、その分析条件（SPMEファイバーの種類、サンプリング時間、設置高さ）を検討し、現場適用性を確認した。その結果、異なるにおいのする箇所で採取した試料からは、揮発性物質に関して異なる分析データが得られることがわかった。このことから、本法が現場に向けた試料採取・分析手法であることが確認された。

（鉄道総研報告，2009年7月号）

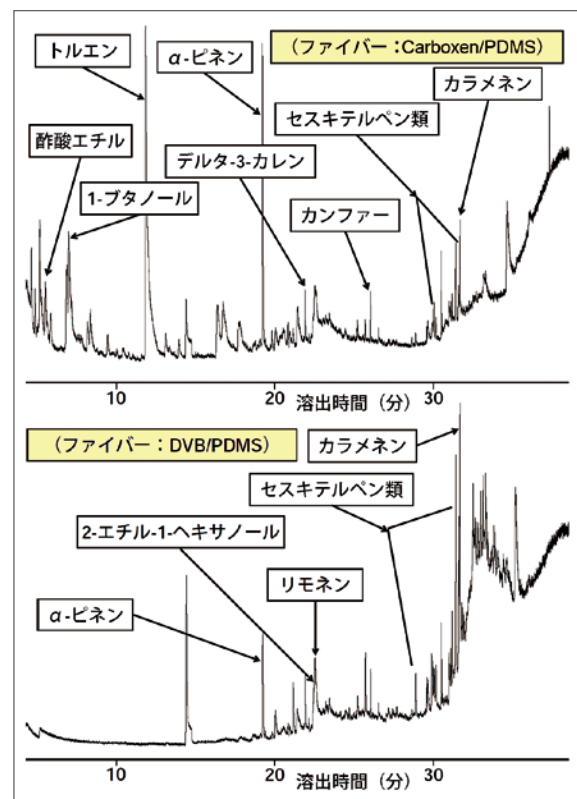


図 空気試料分析データ例